

温浴施設利用者のプライバシー意識に関する調査について

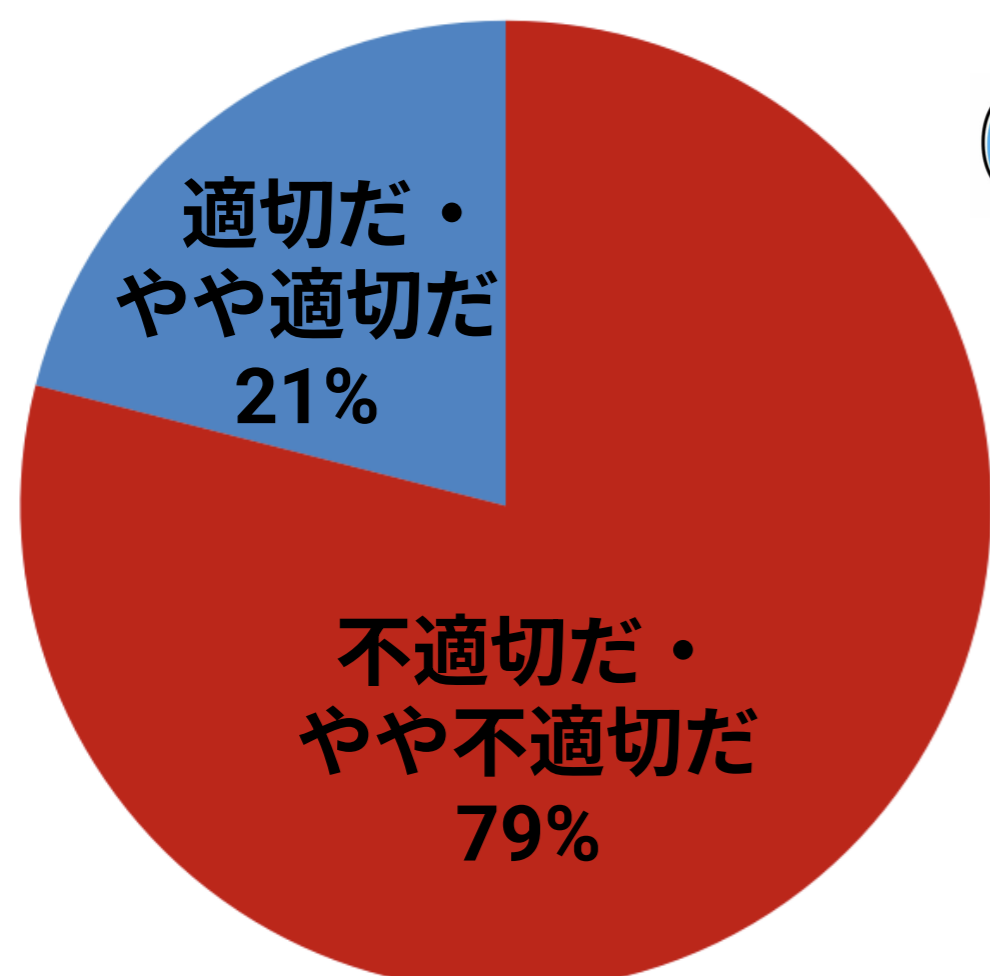
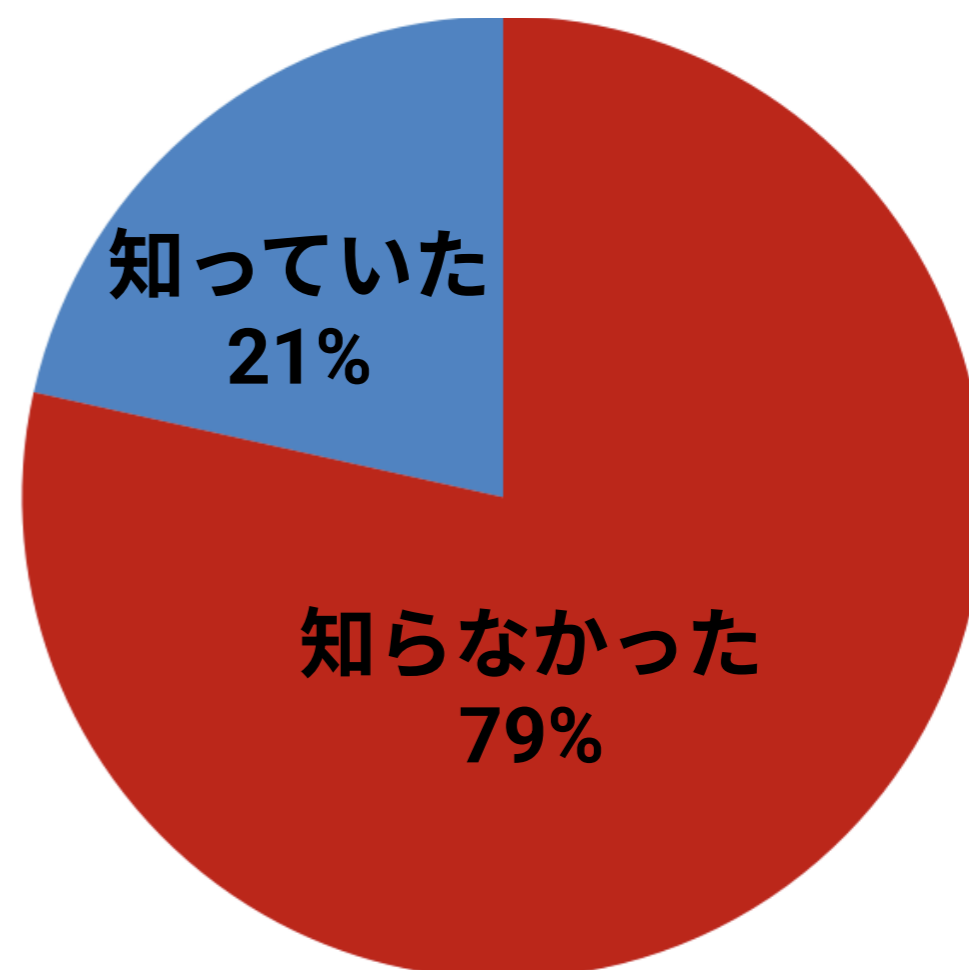
一般社団法人湯屋安心協会実施アンケート調査（2023年11-12月）

温浴施設利用者が銭湯・温泉・サウナ・岩盤浴等の利用時に、不安に感じていることおよび利用者のプライバシー意識について一般社団法人湯屋安心協会（本社：東京都千代田区）がアンケートを実施いたしました。

一般社団法人湯屋安心協会がインターネットおよび街頭で実施（2023年11-12月）n=414人（20-70代 男女）

Q【温浴施設の脱衣所に監視カメラ・防犯カメラを設置している施設がありますか？】

「知っていた」が全体の21%、「知らなかった」が全体の79%という結果になりました。
複数の方から「通っている温浴施設にて確認したところ、実は（気づいていなかったが）設置されていた」というご意見も後日いただいております。

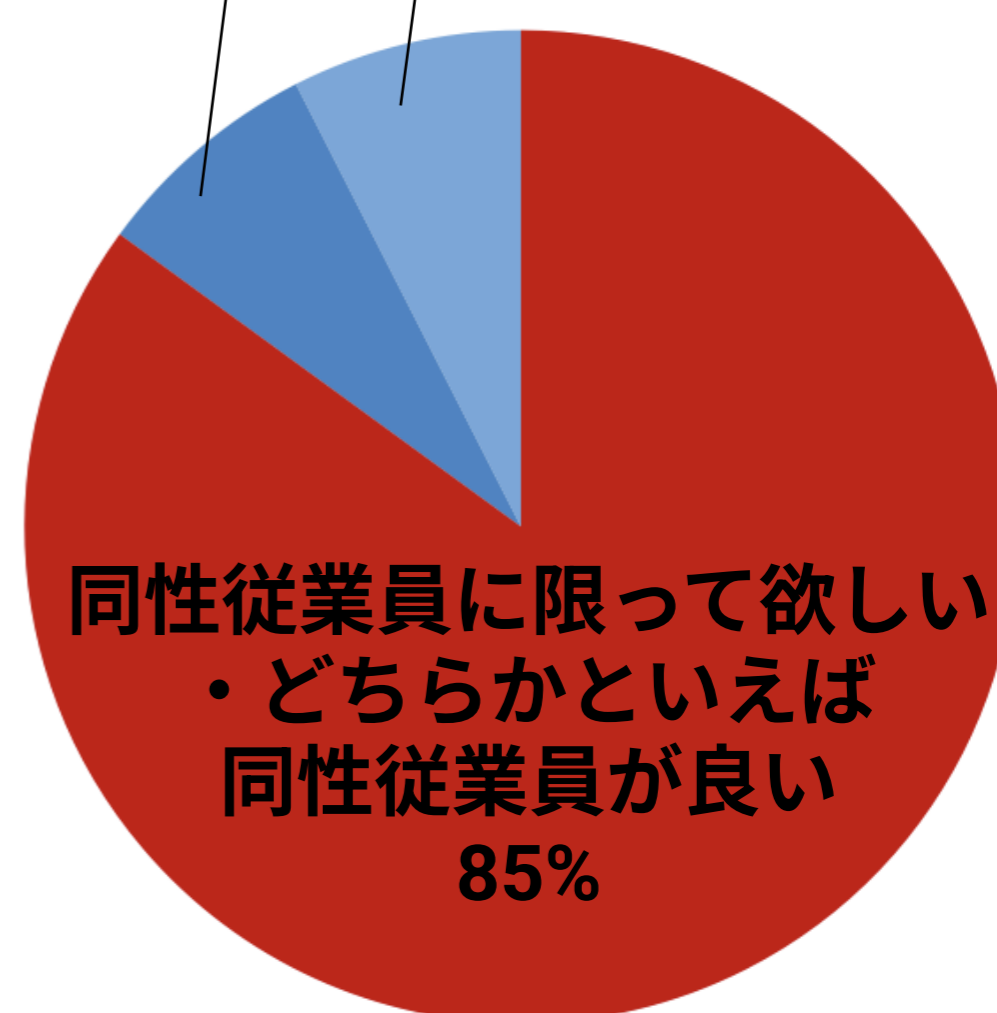


Q【脱衣所の監視カメラ・防犯カメラ設置についてどのように思いますか？】

「適切だ」と答えた人が全体の7%、「やや適切だ」と答えた人が全体の14%、「やや不適切だ」と答えた人が全体の33%、「不適切だ」と答えた人が全体の46%という結果になりました。

また男女別で集計した結果、男性では7割以上・女性では8割以上が「不適切だ」もしくは「やや不適切だ」と回答する結果になりました。

異性同性どちらでも良い 7%
異性同性を気にしない 7%



Q【脱衣所・浴室への異性スタッフの入室について、どう思いますか？（人命救助等の緊急時を除く）】

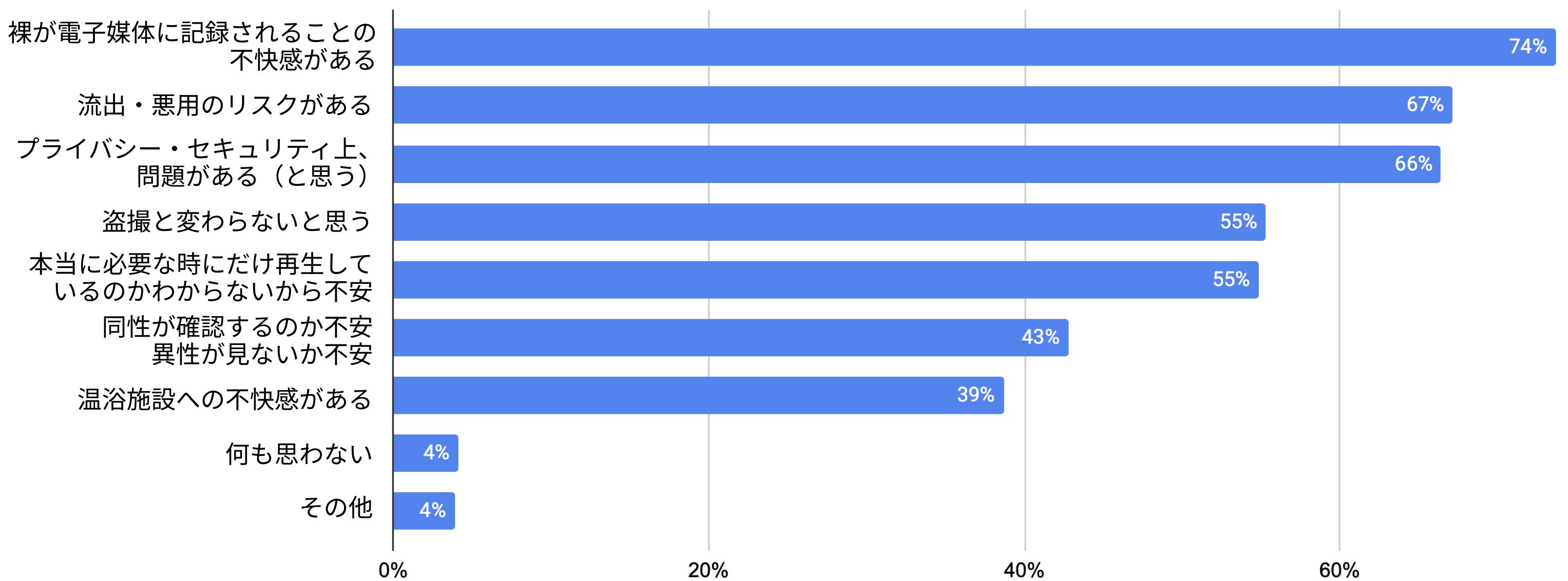
全体の85%が「同性従業員に限りて欲しい」「どちらかといえば同性従業員が良い」と回答する結果になりました。

男女別の集計では男性では約7割、女性では約9割が「同性従業員に限りて欲しい」「どちらかといえば同性従業員が良い」と回答する結果になりました。

上記回答から、男女ともに過半数が、脱衣所の監視カメラ・防犯カメラ設置に関して否定的な見解を示すという結果になりました。

そこで、当協会は「脱衣所に設置された監視カメラ・防犯カメラ」について利用者が具体的に「思っていること」を調査しました。（次ページ）

Q 脱衣所の監視カメラ・防犯カメラの設置について思うことはありますか？ (複数回答可)



監視カメラ・防犯カメラの設置に対して「適切だ」「やや適切だ」と回答した人も含めて回答をしていただいた結果、**全体の74%が「裸が電子媒体に記録されることの不快感がある」と回答し、男女ともに最多の回答でした。**

男女別で算出すると「裸が電子媒体に記録されることの不快感がある」と回答した人が、男性の約6割、女性の約8割で男女ともに最多の回答で、(監視/防犯カメラにより撮影されている側の気持ちとしては)「盗撮と変わらないと思う」と考えている人は、男性で約5割、女性で約6割という結果になりました。

専門家による見解

神楽坂中央法律事務所 山口政貴 弁護士

Q 脱衣所の防犯カメラ・監視カメラ設置の法的懸念をお聞かせください。

脱衣所に監視カメラ・防犯カメラを設置することは、その程度によりプライバシー権の侵害となり得るといえます。

一般の路上やお店でも防犯カメラがありますが、その場合は専ら、顔などを写すものであり、それが更衣室・脱衣所への設置となると顔だけにとどまらず、裸体が映るということになり、レベルの違う話になってきます。



山口政貴 弁護士

Q 「撮影罪になるのでは？」 「違法では？」という利用者の声については、いかがでしょうか。

盗撮目的などの設置となれば即座に違法となりますが、あくまでも防犯目的で、カメラが設置されているという前提をもとにお話しすると、一概に全てが違法である、とまでは言えません。

しかし「防犯目的であれば何でもありなのか」と言われれば、そうではないのです。カメラを設置する場所、カメラの台数、撮影映像の保管管理方法、利用者に対して周知しているのかしていないのか等により違法かどうかの判断は変わると言えますから、つまりケースバイケースです。

Q 男女ともに過半数が脱衣所の防犯カメラ・監視カメラ設置に「否定的な意見」をもっていました。しかし、現実には男女どちらも盗難被害が発生している施設が多いのにも関わらず、男湯への設置が圧倒的に多いことがわかりました。これについてどのようにお考えでしょうか。

これまでは、プライバシー意識の考え方が乏しかったということがあり、近年の変化によって、問題が顕在化してきたのだと思われます。

従来の古い考え方で、「男性であればいいだろう」、「女性だからダメ」という単純な考え方でやっている施設も中にはあるのではないのでしょうか。

実際は男性で苦痛に感じる方もいますし、女性で嫌に感じない方もいます。

男女関係なく、精神的苦痛に感じる人が居るとするのは事実であり、「男性だからOK」、「女性だからダメ」という乱暴な議論は現代では、あってはならないと思います。

Q 脱衣所等へ異性の従業員が入室するケースについてはどのようにお考えでしょうか。

異性のスタッフが脱衣所に入室することに関しても、例えば、女性従業員が男湯に入るとは、「男だからいいだろう」という古い時代の考え方から起きている事案なのではないでしょうか。

利用客からの意見に対して「施設の方針が気に入らないなら来ないで」というようなスタンス（つまり施設管理権）をとることも法律上は可能ですが、そういうスタンスを取るのではなく、施設側は利用客に配慮し、利用客は施設利用に配慮し、互いに歩み寄ることが一番、穏便に且つ健全に解決できる方法ではないでしょうか。

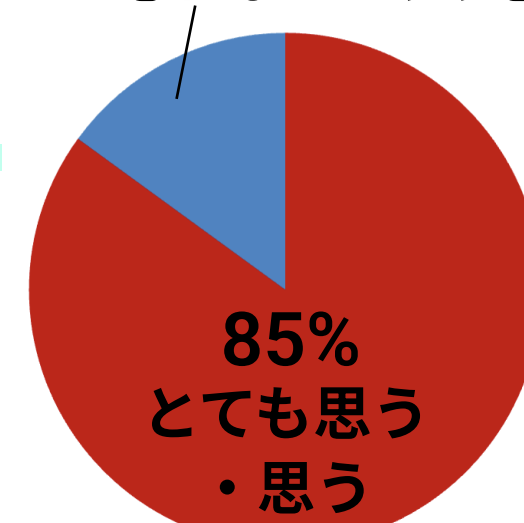
脱衣所に防犯カメラが設置されている件に関しても言えることですが、施設側は利用客に配慮し、利用客は施設利用に配慮し、互いに歩み寄ることが大切で、今後は施設管理者の方の意識改革を求めたいところです。

湯屋安心協会の見解

代表理事 村田華奈

当協会が2024年1月に「月に1回以上温浴施設に行く人」に対して行ったアンケート『**脱衣所の防犯カメラ/監視カメラ設置は「温浴施設に行きたいと思った時、行くことをためらう・躊躇する」理由になりますか？**』では、なんと、全体の85%が「とても思う」「思う」と回答しました。

15% 思わない・やや思わない



代表の私（女性）自身、女性は裸を見られるのが恥ずかしいと主張しやすいのに対し、男性は誤った固定観念により、嫌だと言にくいという現状があると感じます。せっかく素晴らしい温浴施設でも、女性はリラックスして過ごせたが、男性は嫌な思いをした（またはその逆）という事態が起こるのは利用者にとっても温浴施設にとっても残念なことです。

脱衣所に監視カメラ・防犯カメラを設置する措置および異性の従業員の立ち入りについて、アンケートの回答からも分かるように、利用者のプライバシー意識は非常に高く、裸の姿が電子媒体によって記録されることに強い不安を感じていて、またプライバシーの観点から重大な懸念が生じていると言わざるを得ず、当協会としましては深刻な懸念を表明させていただきます。

プライバシーと防犯のバランスは非常に重要であることを当協会も理解をしていますが、例えば、脱衣所のロッカーを強化したり、脱衣所の外に貴重品ロッカーを設置したりするなど他の対策が考慮されるべきだと信じております。これにより、利用者のプライバシーを守りつつ、貴重品の安全確保、防犯等の対策ができると考えられます。

当協会は、日本の温浴文化を守り、安心して使える温浴施設を将来に残すため温浴施設事業者およびその利用者に寄り添い、今後も適切な発信をしてまいります。

温浴施設関係者様におかれましては、安心して利用できる施設作りに対するご尽力に敬意を示すとともに、今後の施設運営にお役立ていただきますよう強く要請いたします。

非営利型 一般社団法人 湯屋安心協会について

安心して使える温浴施設を。

湯屋安心協会（ゆやあんしんきょうかい）は日本の伝統的な温浴文化を守り、温浴施設を安心して使えるように呼びかけ、啓蒙活動を行う一般社団法人です。

日本の伝統的な温浴文化が、利用マナーの低下、盗撮・覗き見等により脅かされ、温浴施設や旅館が廃業に追い込まれている現状があり、当協会が利用者と温浴施設の架け橋となり、温泉・銭湯・岩盤浴等の日本文化を守ることで、誰もが安心して温浴施設を利用できるようにすることを目的とし活動しています。

